

教諭出願 4倍切る

18年度採用 04年以降で初

県教委

県教委は12日の定例教育委員会で、2018年度公立学校

教員採用試験の出願状況を報告した。教諭枠の出願者は950人(17年度比42人減)、倍率は3・96倍(同0・35^{倍減})で、現在の選考方式になった04年以降で初めて4倍を切った。

森近悦治県教育長は委員会審議で、民間の雇用状況改善で教員出願者が減少しているとの認識を示し「良い人材の確保に努めていきたい」と述べた。

県教委は、退職者の増加に伴い08年以降募集枠を拡大させているのに対し、出願者は昨年千人を切るなど減少傾向にあるとした。出願者増へ県外大学での呼び掛けを強化する方針。

出願の内訳は一般選考が906人、スポーツ・芸術などの実績や面接などによる特別選考が44人。

一般選考では小学校が2・70倍で、中学・高校の主要5教科別では中高社会の6・92倍が最も高い。募集人員が若干名の中高保体には72人が出

願した。

特別選考で、教員免許の有無を問わず民間企業経験者らを募る「教育エキスパート」には中高数学などの専門教育分野に3人、英語教育分野に2人が出願した。

養護教諭は62人(募集約17人)、栄養教諭は26人(同約7人)が出願した。

一般選考の試験日程は1次は15、16の両日、2次は8月5～9日。10月上旬に結果発表がある。(石井敬夫)